

施策 No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	都市整備課	主管課長名	今井 克紀
5-4	施策名	公共交通の充実	関係課	企画課、商工観光課、学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度				
	市民	①桜川市人口		人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197			
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	38,422				
見込値													
実績値													
見込値													
実績値													
見込値													
実績値													
誰もが気軽に公共交通を利用して移動できている。		①市内の公共交通機関に満足している市民の割合		%	目標値	20.0	22.0	24.0	26.0	28.0			
					実績値	20.2	17.5	22.4	23.8	26.1			
	目標値				18,000	38,400	68,400	72,600	76,800				
	実績値				31,273	64,179	73,132	66,859	71,353				
	目標値												
	実績値												
	目標値												
	実績値												
	成果指標設定の考え方				①コミュニティバスの運行により、毎年1%程度の満足度上昇を予想している。今後、公共交通の充実に図り、令和3年度には市民の4人に1人以上が満足している状況を目標としている。 ②1便当たり2.5人の利用者数を目標としたが、平成29年度後半より目標を上回る乗車状況のため見直しが必要である。そこで、桜川市地域公共交通再編実施計画に掲げた、平成33年度の1便当たり利用者数6.0人を目標値とする。(平日:28便×240日、土休日:23便×125日と想定)								
					成果指標の把握方法と算定式等 ○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①市内の公共交通機関に満足している市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティバスの利用者数は、運行事業者からの利用実績報告より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	

背景・要因
市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が前年度より2.3ポイント上昇している。これは、桜川市バスが定着したほか、デマンドタクシー、桜川地域医療センター無料送迎ワゴンにより、市民が心配していた病院再編後の通院手段がかなり確保でき、令和2年度から市内巡回ワゴンが運行したためと思われる。
また、コミュニティバスの利用者数は、平成30年度64,179人、令和元年度73,132人、令和2年度66,859人、令和3年度71,353人となった。これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、利用者が減少したものが一定程度回復してきたためと思われる。

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	

背景・要因
市民アンケートで把握している「市内の公共交通機関に満足している市民の割合」について、満足及びやや満足の割合が令和3年度は26.1%であり、目標値の28.0%を下回った。この結果から、公共交通について、より一層の充実を求める意見があるものと考えられる。
コミュニティバスの利用者数は、令和3年度は71,353人であり、目標値の76,800人を下回った。要因は新型コロナウイルス感染症拡大の影響と思われるが、急減した令和2年度利用者数と比較すると増加しており、ある程度の回復傾向が見られる。

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
<p>令和3年度に成果があった活動は、「コミュニティバス運行事業」である。施策の目指す姿の実現に向けて設定した成果指標については、目標値に達しなかったものの、満足している市民の割合は年々上昇傾向にある。これには、以下の3つの事業が貢献したと考える。</p> <p>(1)コミュニティバス運行事業では、桜川市バスの運行時刻やルートの見直し、待合環境の整備を実施し、利便性の向上を図った。</p> <p>(2)デマンド交通運営事業では、運行事業者との協議を行い、運転手の接客などサービス水準の改善を図った。</p> <p>(3)令和2年4月からの桜川市内巡回ワゴン運行開始に伴い、社会福祉協議会と連携し、いきいきサロン等で利用促進の説明を行い、利用促進を促した。</p> <p>上記3つの事業は、市の公共交通に関する協議を行う地域公共交通会議で協議・検討された上で実施した事業で、今後も公共交通会議と協業しながら適切な事業運営を行っていく。</p>	<p>今後、より良い公共交通網整備に向けて以下の取り組みを重点的に行う。</p> <p>(1)桜川市バスについて、つくバスとの円滑な接続を確保するため、運行ダイヤの見直しを行う。</p> <p>(2)令和2年4月から運行開始した市内巡回ワゴンについて、3年間の実証実験の結果を分析し、今後の方向性を検討する。</p> <p>(3)デマンドタクシーについて、利用実態や費用対効果の検証を行い、より良いサービスへの再編を検討する。</p> <p>(4)地域公共交通に対する市民の意識醸成を図る。</p>